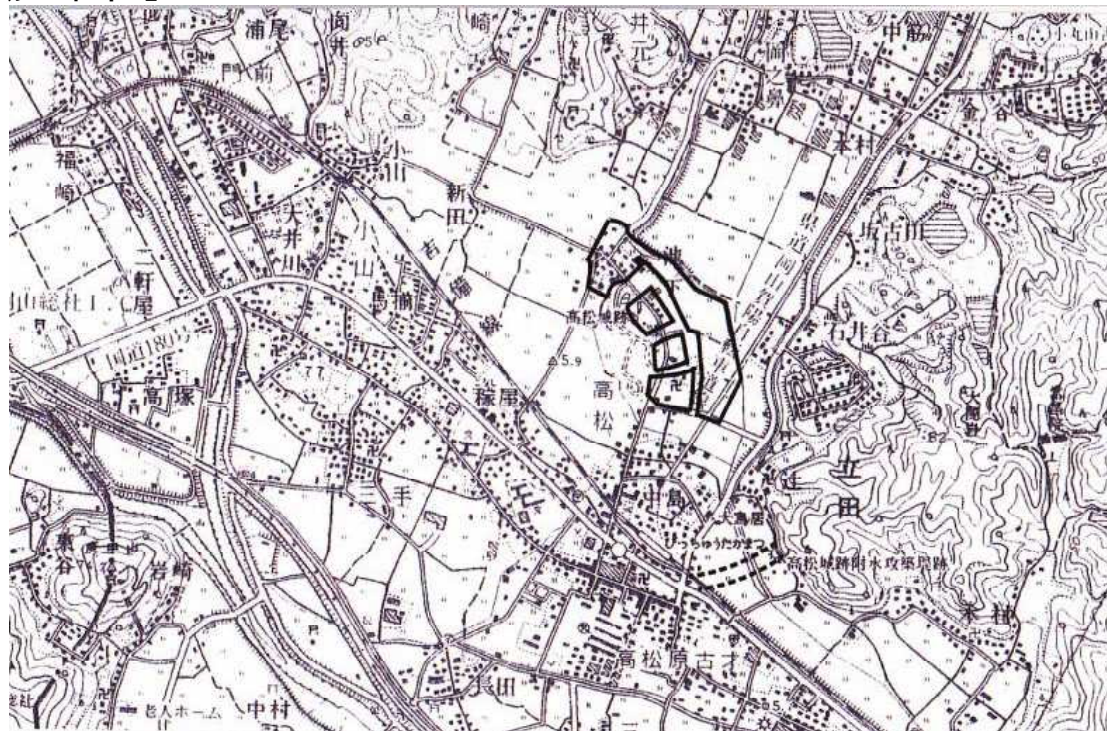


高 松 城 跡

高橋伸二

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

高松城跡は岡山市北区高松に所在する平城である。天正 10 年（1582）羽柴（豊臣）秀吉によって水攻めにされたことで知られ、本丸と水攻め堤防の一部が国の史跡に指定されている。城郭全体の構造は未知の部分も多いが本丸・二の丸・三の丸と家中屋敷曲輪が構えられていると想定されている。これまでに 2 回の発掘調査が行われており、本丸周辺では城郭の改修にともなう捨て石遺構が見つかり、三の丸付近では井戸や柱穴列、堀などが確認されている。沼地のイメージが強い高松城ではあるが弥生時代以の集落が築かれる微高地上に築城されており、防御施設についても自然の沼地だけではなく種々の堀によって区画されていることが明らかとなった。また、築堤の一部も調査され蛙が鼻付近では杭列や俵跡、築堤盛土が見つかった。

【文献】

出宮徳尚 1980 年「高松城」『日本城郭大系13 広島・岡山』新人物往来社

高橋伸二 2000 年『備中高松城三の丸跡発掘調査概報』岡山市教育委員会

高橋伸二 2008 年『備中高松城水攻め築堤跡』岡山市教育委員会

【交通】

J R 吉備線「備中高松駅」下車徒歩 10 分



図1 高松城推定城郭域

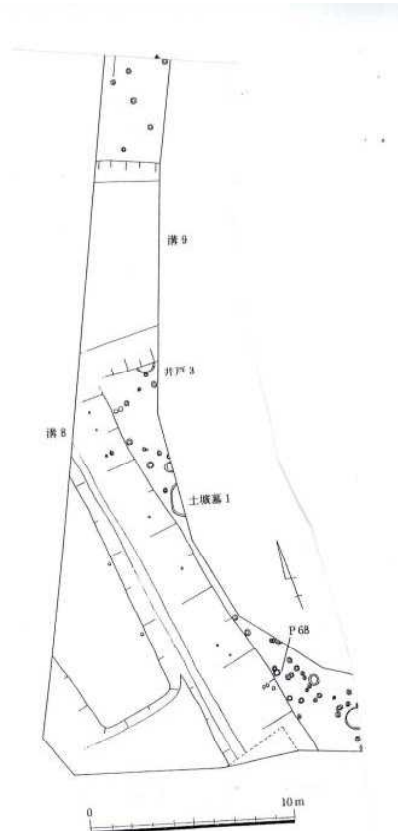


図2 堀検出状況（三の丸）

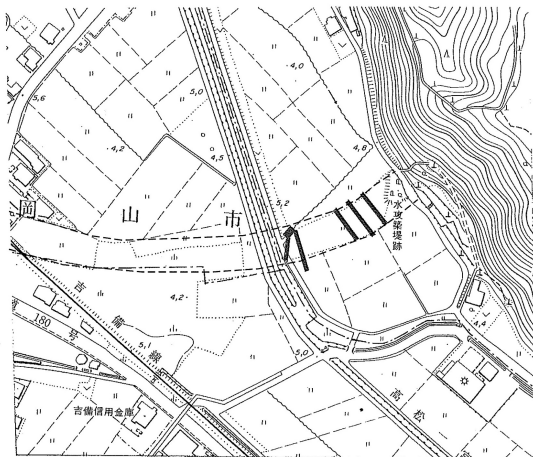


図3 蛙が鼻築堤跡

- 昭和 50 年（1975）年度の調査では本丸周辺で捨て石（石垣）や杭列等を確認。
- 平成9年度（1997）年度の調査では三の丸で堀、井戸、柱穴等を確認。
- 平成10～14年度（1998～2002）で実施された築堤跡の調査では築堤の基底部の状況を確認し高さは不明ながら幅が確定された。

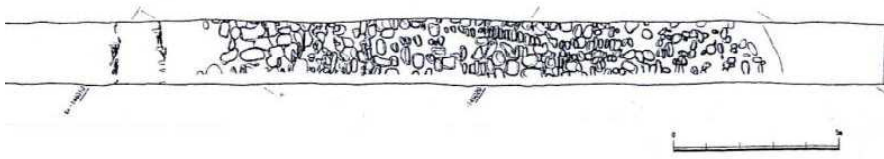


図4 築堤基底面
（杭列・俵跡）